

令和2年8月6日

令和2年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原自動車工科専門学校大分校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原自動車工科専門学校大分校 学校関係者評価委員会は、令和元年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

令和2年8月6日

2. 学校関係者評価委員

渡部 道信 氏 (一般社団法人 大分県自動車整備振興会 教育指導課 課長)
住原 裕志 氏 (大分トヨタ自動車株式会社 営業本部 サービス部 技術トレーナー 係長)
四井 毅 氏 (大分日産自動車株式会社 営業支援部 サービスグループ 課長代理)

(事務局)

平田 浩司 (大原自動車工科専門学校大分校 校長)
青島 徹 (大原自動車工科専門学校大分校 副校長)
木津 郁 (大原自動車工科専門学校大分校 教務次長)
高野 克浩 (大原自動車工科専門学校大分校 課長補佐)

3. 学校関係者評価・意見

令和2年8月6日

<達成度合の評価> 0%（とりくめていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

大項目		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
1	教育理念・目的・育人人材像	1	理念・目的・育人人材像	定めている 70% ～ 80%	教育理念・目的は書籍や小冊子として全教職員に配付され周知徹底されている。学園の特色の一つが『教育ストーリーを3段階(4期)に区分』して実施することである。「就職」と「資格取得」において一定の成果を残し、有為な産業人を育成することができている。資格取得と就職実績をさらに向上しつつ、実習教育を充実させるために、社会の動向を的確に見極め、ニーズを調査・分析して事業計画を組んでいる。	・適正に運営されている。
2	学校運営	2	運営方針	定めている	学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。それらに基づいて部課長会議で詳細を決定し、その内容は全体朝礼で告知するとともに各課で周知徹底している。教育現場への浸透度合いを確認し、より高めることが今後の課題である。	・適正に運営されている。
		3	事業計画	定めている	学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。教職員全体での共有化を更に推し進めることで、目標達成をより確実なものにしていく必要がある。	・適正に運営されている。
		4	運営組織	90%	理事会・評議員会で決議された内容は、本部長・事業部長・校長の下で開催される運営会議で伝達・説明され、部長・課長などの各階層でも適切な意思決定が行われている。また、意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示した運営組織図がある。	・適正に運営されている。
		5	人事・給与制度	80%	要員計画、採用計画、教職員研修計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。また、人事・給与に関する規定も整備されていて、人事部および人事委員会を中心にして適切に運用されている。	・適正に運営されている。
		6	意思決定システム	90%	理事会、評議員会、学園本部、学校と階層ごとに意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容はイントラネットやグループウェアなどを用いて速やかに伝達されている。	・適正に運営されている。
		7	情報システム	60%	学校における管理システムの多くはすでに導入されており、現場の業務軽減に役立っている。役目を終えたシステムなどが残されており整理統合に取り組んでいる。	・適正に運営されている。

<達成度合の評価> 0%（とりくめていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

大項目		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
3	教育活動	8	目標の設定	定めている	教育課程を編成するに当たり、教育課程編成委員会の提言を教育課程に反映させることで、時代のニーズに合った教育を提供している。 また、各学科の教育目標、育成人材像は、分かりやすい言葉で、できるだけ具体的に示している。	・適正に運営されている。今後も学校と企業の連携を充実させ学生を育てていきたい。
		9	教育方法・評価等	70% ～ 80%	教育課程は、体系的にステップアップできるものになっている。定期的な見直しに当たっては、卒業生、関連企業等と協力した検討会によっている。 また、学生に対して定期的に授業アンケートを実施し、講義方法の改善をおこなっている。	・適正に運営されている。
		10	成績評価・単位認定等	50% ～ 80%	成績評価は客観的な方法で常に明確に行っている。 また習得した知識、技術の評価は、自動車整備技能コンテストを通じて実施することとしている。シラバス等による成績評価基準の公開を進めていく。	・自動車整備技能コンテストについては、企業にも協力を要請し実施する事で、より良いコンテストになるのではないかと。
		11	資格・免許の取得の指導体制	90%	資格取得の体制については一定の水準は維持できている。 保護者への教育方針の理解を高めること、また、実務家教員の動員を進めることで、より教育の質向上を図る。	・適正に運営されている。今後も学校と企業の連携を充実させ学生を育てていきたい。
		12	教員・教員組織	60% ～ 80%	教員の確保については、常勤講師・非常勤講師を問わず、採用・育成・評価の各段階において、目的達成のための体制がほぼ出来上がっている。一部、不十分な点を残すが今後の課題としたい。	・教職員の能力向上及び最新情報の提供のためにも、外部研修には継続して参加してもらいたい。 ・様々なタイプの学生に応じた対応が必要となるため、知識面以外に生活面の指導力を向上させる取り組みを検討してはどうか。
4	学修成果	13	就職率	80%	就職希望学生への就職指導においては、教員及び就職スタッフが個別面談を進め、学生個人の適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。学生本人の希望する就職が概ね達成できている。 また、それらの達成状況（就職率）は学園本部で管理されている。	・適正に運営されている。
		14	資格・免許の取得率	80%	教育課程を編成する中で、学生が就職を志望する業界、業種で役立つ資格取得を目指している。一部高度な国家試験等を除き、大半の学生が合格出来るよう教材作成、カリキュラムや指導方法の研究も行っている。	・適正に運営されている。
		15	卒業生の社会的評価	70%	毎年卒業生の入社後状況調査を実施することで、教育カリキュラムの見直しに役立っている。 課題発見能力、課題解決力が不足している点を複数の企業担当者から指摘頂いているため、今後の教育課程編成における課題として取り組んでいく。	・適正に運営されている。

<達成度合の評価> 0%（とりくめていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

大項目		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
5	学生支援	16	就職等進路	80%	就職は教育の大きな目的であり、そのための支援体制は整備されている。 就職内定獲得に必要な指導内容は年間カリキュラムの一環として組み込まれ、早期の内定獲得を実現している。 一部卒業後も国家試験合格を目指して学習する学生もいるが、社会人講座と教育連携した進路指導が出来ている。	・適正に運営されている。
		17	中途退学への対応	80%	退学率の低減は入学者の確保と同様、事業計画における最重要課題の1つとして取組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、今後は学生指導勉強会の定期的な実施等、担当者の更なる能力向上に向けた取組みが必要である。ご家庭との連携も欠かせない。	・適正に運営されている。
		18	学生相談	60% ～ 70%	学生相談については、学生のシグナルを担当が見逃さずにキャッチし、その都度対応している。また、節目ごとに全員と個別面接を行い、今後の進路、目標確認、悩みなどを開きだし対応している。その結果を指導記録にまとめ、上司に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。	・外国人留学生の対応については言語の違いだけではなく、文化の違い、日本文化の理解（地域性の理解）も念頭に置いて指導していく必要があるのではないか。
		19	学生生活	40% ～ 90%	より多くの学生が就学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。今後もニーズに合わせ、必要な支援体制を整備していく。	・適正に運営されている。
		20	保護者との連携	80%	保護者への連絡については定期的に行っている。特に、規定の家庭宛注意文書が発送される前に、保護者への連絡を義務付けている。必要に応じて保護者に来校していただき、面談も行っている。しかし、業務時間内に連絡を取る事が難しく、また、理解を得られない保護者も年々増えているのが現状であり、担任の負担が増している。	・適正に運営されている。
		21	卒業生・社会人	60% ～ 70%	卒業生への支援体制としては、担当教員を窓口、問い合わせの対応している。担当教員と上司や他の教員、関係部署間の連携により、可能な限りのフォローアップを行い、卒業生の満足も得られている。更なる満足度の向上を図るために卒業生サイトを運用し支援体制を整えている。 また、大学卒業や社会人などのニーズにこたえる制度の開発をさらに進めていく。	・適正に運営されている。

<達成度合の評価> 0%（とりくめていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

大項目		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
6	教育環境	22	施設・設備等	80%	施設・設備に関しては、ほぼ十分な対応ができていると思われる。今後もこの体制を崩さないように教職員の意識を高めながら維持していきたい。	・適正に運営されている。
		23	学外実習、インターンシップ等	60%	実習等や研修の参加にあたっては、事前にガイダンスや説明会等を設け参加する目的等をしっかりと伝え事故やトラブルを防ぐように努めている。	・適正に運営されている。
		24	防災・安全管理	50% ～ 70%	保険等の加入については十分なものになっているが、それ以前の物的および人的な備えに関して、これから対応を施していかなければならない。	・防災に対する安全管理体制の整備については、適正に運営されているが、ハザードマップ等の活用や、県との連携等も今後検討してはどうか。 ・今後は災害による自動車実習棟からの環境事故発生の可能性も考え、防災対策を進めてはどうか。
7	学生の募集と受入れ	25	学生募集活動は、適正に行われているか	60% ～ 80%	将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、進路選択について過ちを起さないようにさせたいと考える。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。留学生については、日本語学校への情報提供、連携を強化し、適正な受入れ、在籍管理を行っていく。	・外国人留学生の募集について、授業についていける日本語レベルかどうか、将来社会で活躍できる人材かどうかをしっかりと判断して受け入れることも必要なのではないかと。
		26	入学選考	50% ～ 80%	学生一人ひとりに対して、書類選考を行っている。また、必要に応じて面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っているこの体制を維持していく。 また、入学選考時に把握した情報は担任レベルまで落とし込んでいく体制作りを行う必要がある。	・適正に運営されている。
		27	学納金	算定している	教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等と常に確認をしながら負担にならない金額を設定するように心がけていく。 また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。	・適正に運営されている。
8	財務	28	財務基盤	安定している	学生募集については、学科、コースにより変動はあるが、学校全体としては好調であり、財務基盤は安定している。	・適正に運営されている。
		29	予算・収支計画	策定している	当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。	・適正に運営されている。
		30	監査	実施している	学校法人監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄付行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。	・適正に運営されている。
		31	財務情報の公開	70%	学園全体の財務情報は大原学園ホームページで公開されているが、刊行物あるいは学内掲示での公開に関する規程がないため、規程の準備を今後進めていく。	・適正に運営されている。

<達成度合の評価> 0%（とりくめていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

大項目		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
9	法令等の遵守	32	関係法令、設置基準等の遵守	90%	学園本部が中心となり、法令に対して速やかに対応できる体制を採っており、遵守に必要なものも文書化している。今後は教職員および学生に対して、定期的・継続的に実施できるよう検討を進める。	・適正に運営されている。
		33	個人情報保護	80%	個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を催すなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。	・適正に運営されている。
		34	学校評価	行っている	自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制になっており、大原学園ホームページにも掲載している。外部者による学校関係者評価は行い、報告書は大原学園ホームページに掲載している。今後も継続的に評価を行い、課題を明確にして学校運営に活かしていく必要がある。	・適正に運営されている。
		35	教育情報の公開	50%	学校の概要や教育内容は大原学園ホームページ等に掲載しているが、教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。	・適正に運営されている。
10	社会貢献・地域貢献	36	社会貢献・地域貢献	50%～80%	附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層で様々な分野の教育サービスを提供していく。また、地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたのも提供したいと考えている。さらに地球温暖化対策は対策効果の基となる校舎の管理運営を徹底したい。	・eスポーツ部について、今後発展して行くと予想される分野に、積極的に取り組んでいることは大変素晴らしいことだと思う。 ・小学生向けのイベントを実施し、子供たちの夢を叶える活動も社会貢献・地域貢献につながるため検討してはどうか。
		37	ボランティア活動	80%	ボランティア活動は学校所在地自治体に留まらず他の自治体での活動にも参加している。また、活動報告書や職員の共同参加を行い学生の活動状況を把握している。	・企業でも地域貢献活動には力を入れているため、これからもボランティア活動に積極的に参加をしてもらいたい。

大原自動車工科専門学校大分校の学校運営・資格試験実績・地域貢献について学校関係者からの評価を行い、令和元年度における自己点検・評価については、一般的に良好な結果であると評価できる。

学校運営は、意思決定システムが確立されており、円滑な運営が行われている。

資格試験についても、自動車整備士資格合格に向けステップアップできる体制が整っており、高い合格率が期待できる。

地域貢献活動についても、令和元年度は別府大分毎日マラソン大会補助、清掃活動、パトロックス（大分県警、大分県防犯協会の防犯活動のサポート）、ラグビーワールドカップボランティア等、数多くのボランティア活動に参加実績があり、大分駅南町協議会景観づくり部会への参加を含め、教職員も積極的に参加していることが評価できる。今後も引き続き一人でも多くの学生がボランティアに参加するよう積極的に促し、地域貢献を行える年にしてもらいたい。

また、外国人留学生の教育については、今後自動車業界にはなくてはならない存在のため、資格取得、知識・技術の習得について力を入れて実施してほしい。

なお、学校運営として、予算計画・執行は規定に従って適切に行なわれており、財務状況も安定している。

4. 学校関係者委員会総括

「学生のキャリアプランに沿った就職」と「即戦力を備えた社会に必要とされる人材育成」を教育テーマに掲げて、教職員全員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組んでいる。とりわけ、多くの大原卒業生が実社会で活躍していることは、社会的貢献の意味で非常に大きな役割を果たしている。

二級自動車整備学科の教育について、自動車整備士に必要な資格だけでなく、社会で即戦力として活躍できる知識、技能の習得や社会人としてのマナーや気遣い等を身につける教育については学生のみならず企業にとっても非常に有益である。今後も継続するとともに時代に沿った改善をお願いしたい。

また、学校内教育だけでなく、地域に根差した学校づくりにも力を入れており、年間を通して各種のボランティアへも積極的に参加し、人格育成を養う教育を実施している。学校内外の様々な場面で学生とコミュニケーションを図り、学生の特性を踏まえた上での指導が、素晴らしい教育成果を上げている原点であろうと推察される。学習相談のみならず、日々の生活における悩みなども教員・本人・保護者間で三位一体の関係を構築し共有解決しながら、学生が成長していく姿が想像できる。

今後も「学生のキャリアプランに沿った就職」と「即戦力を備えた社会に必要とされる人材育成」を継続的に実現するには、社会の変化に対応した教育プログラムの開発・改訂・提供を行うことが重要と考えられるため、重点課題の達成、更なる改善に向けた取り組みの中で反映させて欲しい。大原自動車工科専門学校大分校が地域産業の発展に貢献し、ますます信頼を得られるようにサポートして行きたいと思う。